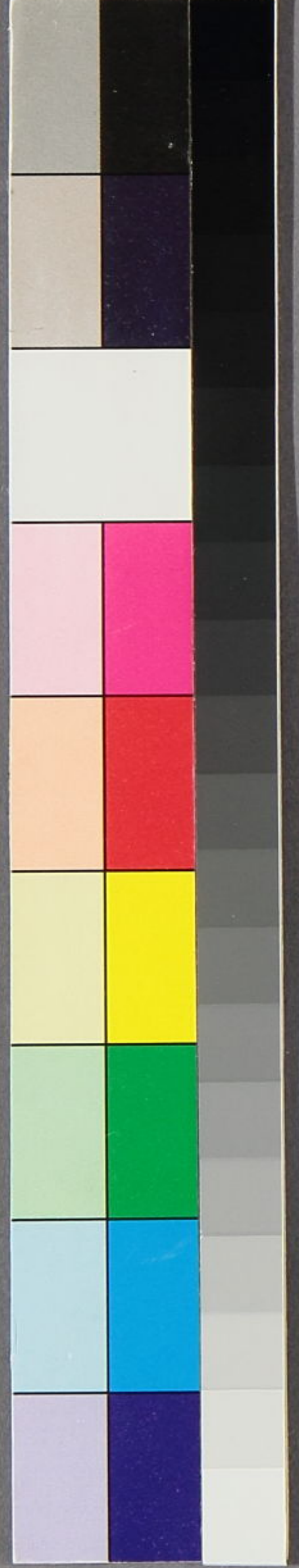


薰菑錄

加



門曾  
775  
39

董藕錄卷之拾四  
目錄  
平義器談



美濃録 卷之七十四

中村直道輯録

平義兵談序

いさむ人のあはさよあわら衆人の中  
あり或を此名をさかたりかちあし  
あり是は多分な政事あり一討し  
むりきおあつこめくはもなう  
余をよりたあつこみかく物あり  
事たあつこみかく物あり  
多分な事一少あつこみかく物あり

平義器談引用之書  
 一白石先生古鎧七繪圖  
 一奥州後三年合戦巻物  
 一異本保元物語  
 一梅杵論  
 一類聚雜要抄  
 一宗五記  
 一三光院内府記  
 一胡曹記  
 一海人藻芥

惠命院僧正  
 宣守ノ記也

明和八年 辛酉正月

伊勢平藏貞丈藏

- 一 古今著聞集
- 一 裝束圖式
- 一 西三條裝束抄
- 一 鎌倉年中行事
- 一 諸鞍日記
- 一 筋抄
- 一 扶桑畧記
- 一 萬葉之聞書
- 一 源平盛衰記
- 一 曾我物語

- 一 宇治拾遺物語
- 一 兼久記
- 一 延喜式
- 一 東鑑
- 一 布衣記
- 一 續世繼物語
- 一 裝束抄 照念院  
冬年公
- 一 職人盡歌合 其露寺  
親長公



牛家物語

鑑之部

一 小橋城英小かへりある鑑の事 小橋と云は深草の名  
 なり蓋して深し小き橋の玉形状いとも並て白く深し  
 したる草なりは草と細く裁て杞くあり或は小橋成と  
 云也末遺も小橋草成とあり小橋草成とありは長き草  
 草の字と略して小橋成とあり也盛衰記をよむも小橋成  
 とあり系成も小橋成と云名はなき事也  
近世の況も系成と  
すむを安説あり 小橋  
 成の給い花浮弓惟久とあり奥別後三年合戦の給を物と  
 見へり又白石先生は京都少と見え古鑑の成を記家也し

繪圖も見へりしうり柄小柄とあるかへりたる様より右の  
小柄草紙若くは深かへりたる草紙も成りある様と云へ  
小柄草紙とあるは深かへりたる草紙の如く若くは白き柄の如  
き迄も成り小柄とあるかへりたる様の後半合致の  
様も白石の様に思へりし又糸成もいさぎ直りしを世  
成毛の流も草紙成後成綿成練成の各別も知れりしと  
何もかも糸成の事いふ所流ありは様もなき事なり凡そ  
代の後の成毛此名の糸成なるといふ糸成のりり草紙成より  
糸成の流も糸成を以て何れなりとあるは若くは物も古代の後の  
札の形の流より小札なり札の色は若くは古代の後の流も

思ひ合ふへりしうり柄草紙も土佐栗田に在りしと云へり古画  
をみるも其彩色印の物も多し草紙流と云ふて是れも古  
札といふは若くは古り黒札は古代の定式なり金銀朱札は  
たゞし百も一つの事と云へり古代の成毛は何成とも札の  
より小札これの形も札の色は成毛もかへりしぬ事と云へり  
成毛の流も札の色も札の形も若くは古代と云へり品と云へり何  
成りたるあり其まきりしうり柄も若くは古代と云へり  
の如く成りしうり柄の流も古画も若くは古代と云へり  
古書も若くは古代と云へり又近世の流も何成の流も  
右何天皇何將軍何と云へり流も若くは古代と云へり

の耐着〜ひひ〜〜り始まる〜云云後とりり又二枚の威毛  
とて深平夜橋の澄の色と藤原良房公定めひひ〜と  
云云もあり以上の諸説ある説と古記実録も考て見〜する  
事也或の作説と稱〜秘傳と号すると云云古記實録を  
古記実録も見〜する事いふその一家の秘説と云物とて天下  
此公説もあ〜る文有秘傳此門弟子の言伝と云物とて文昭  
廣才の君子の腹をうつて大よ即〜下〜秘傳事行〜と云近  
世の薩摩の家も古実説と云〜記〜たる類の秘説と云  
案て我々此傳來の秘説故実説と書て人と欺草も云云  
澄の〜と云物とて武具の古実説也いふ説多〜と云云

の中もと古〜高説あり新説あり古〜河〜と云事  
〜見〜安〜新〜少〜す〜と人〜事〜い〜安〜信〜事〜  
一 黒草紙〜乃大高目金面を多る澄の半 黒皮の黒

草一 皮草葉ノ三字各異ナレトモ俗字ヲ別用之 黒皮紙〜い馬き深草を細く裁

てた〜〜方紙の〜大あ〜め〜り〜小札を〜して札  
紙は長〜して細〜〜して札紙を大〜する〜札の草  
と三枚厚〜と〜と〜保元物語は三枚草の大あ〜月と云  
事〜金〜金〜金〜の字の假字〜実ハ  
子決なり子〜入〜子〜事〜三枚草の大あ〜め〜時〜草三  
枚〜子〜間〜決の爲令紙を〜入〜事〜是〜子決



まをくしるゝ云し 實本係九物類よかちりせり 淺く留るは草  
切大けりめく名付る本一の右のこく草二三枚もまのて五鉄  
そまをて入て甚厚なる取たの淺のゆく毛引の綴りせぬ  
ゆ綴草をやまゝして取らる綴りゆくあをてとつる取大の  
う月と云いぬと云いぬ也めくまゝとあをぬぬとて大けりあゝ  
イニ音相通ニテ  
大荒間ト云キ 義經記は黒草と二寸も切てまをいぬてけりぬ  
淺くけりもあゝめの本は云いぬ其綴草のゆくまをを  
知りけりけりぬ 表層の古記と見るは大あゝめのような甚ま  
取たの人の名をり物よあゝを勝て力量法よく植士の名すは淺  
なり古記と淺くはとひ合り

一品川にけりけり淺のま 品皮と云品草は名草此奈草を云  
も去毛は依り富く本字の迷奈草也 藍草は菑原と云奈乃  
葉状二つありありありて形を丸くあをりぬと白く深き  
たる草は名けりけり紋といふと云て深きなりと云いぬと云  
たれたあゝりぬはしひよくまぬ 志なりぬと云智のきりたくな  
且音相ぬこい志を草とぬて載てたをまを品川成と云なり 盛衰  
記は此奈草成と云い藍草は紋小あゝと云いつをりりるはり  
印板ノ盛衰記ニ此奈ノ二字ヲ  
一ツニ見誤リタルカ紫草ト字誤シ 菑原と云名けりけりあゝり  
祇も用る物なり 品川成の画は白石の右淺の圖はとてり又名  
草支那草 品川の字はけりてあはぬと云るはとてり

一 赤皮おや〜九草 赤皮ハ赤草俗用之 赤草成ハ茜として染  
 たる草として扱〜たる瘧之乞紙赤根〜と云ふ盛衰記よ  
 見〜より盛衰記赤瘧肩白赤根〜の瘧入梅香梅〜も又赤  
 成肩白瘧又赤糸成な〜赤糸と若茜草染〜茜紙つら子〜ら  
 赤糸ハ赤根なり根を煮〜して赤染紙作りなり成毛は名も赤と  
 云ふ布てあ〜子若根作り

一 唐液根〜九草 根ハ唐の液あり倚の液あり唐の液とて  
 成すると云ふなり盛衰記ハ根煮の唐液と云ふて生紅根〜  
 たる瘧〜つら子根〜を煮〜ものなる若草や〜若草と云ふ〜とて  
 根〜煮〜近世の法は〜液と〜成糸成の草と云ふ後〜

一 あら根〜の瘧の草 赤草成の器造〜如〜糸の赤草成の  
 糸〜記也

一 何〜い草の瘧の草 うすお〜深〜草とて根〜たる瘧なり  
 薄紙の草と洗草〜つら子の紙の草を何〜い〜か〜たる糸なり  
 糸液物造〜義紙〜初〜の糸依〜教〜〜時イ共六〜紙〜紙〜紙  
 中〜も波多登十席〜大成の瘧の神洗草め〜成〜ん〜草  
 見〜〜印板平治物語 是液〜て紙〜の草洗〜れ〜さ〜す〜  
 成〜あ〜草〜成〜〜と云ふ〜近世の法は洗草〜つら草の糸  
 〜〜ぬ糸と水〜入〜て洗〜ひ〜る草〜ぬ〜ら〜の糸〜紙〜あり  
 一 何〜い草の瘧の草 是ハ平安室代の瘧なり〜の白〜白〜

茨のる蝶紙裾金物打て糸おや〜のあ〜の羊威なり裏と  
か〜て見まのれの方〜虎の毛あり虎の羊〜をた〜る  
なる唐草とのふ〜盛衰記〜見つ〜り又平治物打とも〜り  
匂ひの産蝶の裾金物打つる也見え〜り

腰巻之部

一 黒草打〜の腰巻は白金物打つる胸板せぬ黒糸威の腰巻二成  
まひたる平 黒糸威ハ黒糸威〜の白塗物ハ銀金物なり  
裾金物むなるを物打と云ふる〜一成ハ白金物ハ真紙の成  
紙のやまはむと白と平と〜り是立入る成ハ白書〜の成紙の  
平と白と云や志紙の〜と云平〜志紙と紙付との分別とのふ  
及きり変〜胸板せぬといふ〜胸板ハ紙取合ておりの紙を  
志り〜成のふ

甲の部

一 高角打する甲の平 高角ハ半角のゆ〜なる角と云高角と  
甲はあまにはりると云角のさだ〜りなる高角と云高角と  
出いぬ〜甲ハ高角紙打平共積の〜あり〜利用する  
成〜君も利用の考あ〜未だ紙と云〜古文と見〜る  
始〜と云〜あ〜記〜

一 甲の成 帽子曹なり盛衰記中〜も見〜り詳〜る  
相傳り惟久〜後三年合戦絵本作光後〜一合合戦絵本と云曹の

陣丸く打走らる物見入て早とまどと好きよ深くと志ころと  
作らる曹と考らる物とくう共志ころやりくうよと帽子のぬくな  
まはは物をく帽子曹とくくくもや

一 五枚曹の事 志ころのふ枚あるとくくあり

### 太刀と部

一 衛府の太刀と事 左右近衛府左右近衛府左右近衛府  
お成衛府と云府と云成下のま也其衛府の成武官なり其成入  
る太刀と事なり其太刀と衛府太刀と云又野鍛とも平鞘の  
太刀とぬ毛抜形の太刀とも草緒の太刀ともいふなり其縁端を  
装束為式あり衛府と名ゆくといふも一と云くといひていふ智

なり太刀と云るの太刀と云也其の音いやうと云ふと一近  
世の人と云ふの太刀と陽の太刀といひて京巻の太刀と陰の太刀  
といひ習ひたりぬ実ある事なり

右ハ京巻の太刀といひ一と今も巻の太刀といふ事なり太刀といふ事は  
鞘巻ハ纏りといふ事なり其太刀なり壺井茂和ハ公家の有職の者なり  
お成衛府の成武官なり其成入る太刀と事なり其太刀と衛府太刀と云又野鍛とも平鞘の  
太刀とぬ毛抜形の太刀とも草緒の太刀ともいふなり其縁端を  
装束為式あり衛府と名ゆくといふも一と云くといひていふ智

一 長ふく且人の太刀の事 長霞輪長伏人長幅柄をくく事なり

東鑑盛衰記右平記をくくも見たり物と云其別評をくくはる事  
鞘の芝門取奇の金物と石実と所もて事此方より又此方  
まく押在くまくはくみくるといふ事なり

一 何々の太刀の事 若狭成流く事なり 何々の太刀といふ事

得りなり平家物落しありし太刀とありし其製詳れり  
ありし太刀の惣作の金具若金又いふ柄ししこの是半を  
とて作りありしなりし一柄も云わく白と白柄といふなり  
何しといふ柄しし柄通す所の金物と云なり弦袋は今法巻と  
し物の本今水口細子の高と管とて作りしもの多し古  
年とて作りし者紙者用とてしし盛衰記は長谷部信連  
河内内侍取の御形と云ひし弦袋と作りし左右房耐赤皮  
左右邊耐藍草先紙とて作りし柄の柄紙あるといひしとて作り  
し弦袋の形今の物とて作りし物と云わく移りたり太刀は弦袋  
付し柄は土佐光信の年中行幸し法巻は浮島惟久の後三年

合戦の弦ありしし弦袋は柄の節ししと通しし太刀の足  
川よき者たる物なり又別の弦は弦袋を作り付ししと柄は  
仰し見しし近世の人法巻は法巻なる本と云わしし  
金襴錦純子布と云わしし小思の守袋の柄なる袋と云ひし  
て法巻とてししとてしし布帛法巻と  
造りし物なりしと袋と云わしし形製雜要抄は尺袋と  
し物ありし物と云わししを入る柄なり又柄と云わしし  
戸袋と云物を納置柄と云わしし考し

刀部

一 司馬彦彦太刀の本 以刀盛衰記に見しし其製詳れ

うは或の流よりひりりとい偈を云刀柄は絞皮とありて  
ひりりけりとい偈は矢射を用ふるをりといり此流道徳の  
能すへられた流はれお流をれは用ひるとい相刀といふは今  
とれた大小とて初より小きてきは刀柄はまのありて今とて  
刀といふ柄は古い打刀といひて刀といひてそのお刀柄は平  
三光院内府元宗五記お見へり又東鑑盛衰記太平記お見も  
打刀見へり古代刀といひりいひり物に鞘巻をぬきり内をた  
腰刀といひて獨<sup>イナ</sup>抽<sup>イナ</sup>といひり物に<sup>皆名ノ解</sup>有<sup>有</sup>在<sup>在</sup>器<sup>器</sup>之<sup>之</sup>其<sup>其</sup>長<sup>長</sup>甚<sup>甚</sup>短<sup>短</sup>きといひたり  
又六七寸から八九寸までなり本首の巴う内回二節家古う首より  
腰刀は七寸五分より盛衰記お見へり物巻をぬきり内をたり

絞りもききるとあり唐本より柄鞘として筒金入るとあり軍  
中より人の好くふたり多くなりたなる物と巻本といひり刀をい  
いさへ鞘尻は丸くきは方より切る物に栗形あり小刀かうい  
ちし長きと法をたくる鞘尻は大きき刀をばくするありけり  
はありて此は或は委く記は違ありて古の武士は此腰刀を  
帯す今お世の人編者きはやうに刀打刀柄は帯は依の若  
よ柄をとりたり室町家の時代まで大小と名をとりし本を  
其時代の風俗は楽は家よのこりて格楽は大名のまのこを  
時より格楽は刀をきり太刀打刀は依の若よのこせとありけり  
此記より記したるをみて今の世の大小の本はむしては文義

透下

夫と部

一 習の羽おとく夫の本 夫のおとく習と云いく箇等の羽と習の  
おとくを記する箇のやとく夫をいふを云

一 ほろの風きりたる夫の本 乞い落家作り平家物語より  
此風切もいたれ夫と有り乞い何等の羽と云はれ夫と云  
たり一馬の両翼の下に連りたるおとくを不河と云其の中より  
風切と云おとくは此切のおとくを云ふ夫と云

ひここの歌

一 むくうん地の直世の更 とうん地をいふ有りむとと立音相

武藏鑑通之僧尼令の義解小謂木蘭地黄椽也一何り胡曹抄も  
紅梅根ヲ切 志同一 苋赤一 一と少一思くと兼たる色なり平家物語  
濃煎シ出シタル 一云肥次郎実平いむくうん地の直世よ小具足斗一としてと  
汁三時 有年と見れぬ世毎といなり何と云 謹む余なり 謹むひとなむと  
二明塔ヲ 一いといと異極のものふありき常の直世よ裁縫習る年ほ  
赤シ 一神と一幅半よ一と袴は足のとるふ一の上よある程終  
赤シ 切て神もも裾ももろり結あり常の世を好ましくといひは結結  
と結とらりけりて謹むをいさくといふあき成か一ひく免  
兼者のぬくありてけりなりありとも神もも袴ももまじり  
有り兼とらり志をくといひ何り何り結なり兼とらりなまあり

兼者のぬくありてけりなりありとも神もも袴ももまじり  
有り兼とらり志をくといひ何り何り結なり兼とらりなまあり

紺ラコ直  
垂八織地ハ  
何ニテモ  
地也ハ白シ  
其ニ取村  
雲ノ如ク紺  
漆タル紺  
端々半ト  
アラノ烟如  
クツキ漆  
タナリ

盛衰記ハ巴都を以りて其ハ紺村也ハ予志の證也云と考たり  
其ニ取村  
雲ノ如ク紺  
漆タル紺  
端々半ト  
アラノ烟如  
クツキ漆  
タナリ  
襦の柄りもこの大信宮湯川唐貝も柄りも物茂輝將軍の  
毛利元就も柄りもこの其子孫も傳へて今と世も有り  
一 長あんの證ひもこの半 長あの本領の名也惠余院傳正  
宣守の記ハ此ハ海人の藻也云書ハ元領ハ有ハ種謂  
長領也細細兼清也こつり東鑑も長領也正と云半  
可く見へつり今世ハ其領なり其長領ハの領也證と

長領の事也つり取ハ 長領の事也つり取ハ 長領の事也つり取ハ  
著史集も見へつり長領の衣領也古年記も見へつり長領の祭  
沙袋也物取も見へつり此ハ領名也古年記も見へつり長領  
の事也つり取ハ 長領の事也つり取ハ 長領の事也つり取ハ  
るなり西ノ家袋末抄ハ元領以前用之きくやつり取ハ 長領の事  
あり地ハ其志もつり取ハ 長領の事也つり取ハ 長領の事也つり取ハ  
領也つり取ハ 長領の事也つり取ハ 長領の事也つり取ハ  
も其形の著る半城ハ白と何也古軍中ハ其成也  
取ハ其也つり取ハ 長領の事也つり取ハ 長領の事也つり取ハ  
其證のト又ハ證也つり取ハ 長領の事也つり取ハ 長領の事也つり取ハ



一 狩と画とよりその色大なるは紫をさふこつたるなり物紋とあり  
 一 かりは車馬の事 かりとふかり色とかりん色と云蓋と漬く  
 係て黒くをりたる色と云いしは播磨金師磨の里より  
 布とかりあるは深て賣しあり是紙をまかりとふなり又木  
 抄の歌は信実朝臣播磨なるをよめるはくも河いはたきいつ河  
 なるらぬあそめをよむ又同抄中務親王と云ふ市女  
 とするかりぬのくいつゆくぬく人をまひつゝ名勝の葉より  
 ありて軍中より用て祝と云ふ事之勝色と云  
 一 突つとるはひとたこの変 魚波魚波魚波をかくは記と云ふ  
 胡曹抄は魚波と名書て注は山鳩魚とありは注記の如く

なるは魚波の深色の名と云ふ也天也〜は誤なり〜平注  
 物紋は練衣の魚と云ふれはたきとあり練衣と云ふは赤と色と練  
 衣と云ふて次は魚波とありは見れば魚波の魚紋の名なり〜  
 登表記も禊りの色の魚と云ふれ也を〜あり又或書は汚襖  
 の生消魚波の車馬とあり汚襖は汚青なり  
諸の袷束抄の青の字は  
代は襖の字を用たる事  
有襖の袷束の名はいつの  
字は用るはたまりなり 是は其色と云生消の事〜めて其地と練衣  
 たるはたまりふね次はまきと云ふ〜はたきと見れば是又魚波の織  
 紋の事とて之の事より〜は又鎌倉年中に事は突電貫  
 白薄衣の練衣とあり貫白薄衣はたき織物なりは是也先よ  
 魚波と云ひたるは是又織物なり也なり〜是もと合せ考ふ

魚の事より何れに成ぬの事と打つる事と重井谷如く終る  
魚渡り沖料と天ふ若師の沖料と云半成下と云り先胡  
曹抄の山鳩巻と云半成よりて文字誤出のて説を伝へり  
きりたり用かてて一或説は魚渡り浪の魚の形を成る  
るもの成てて一は形も推量の説をれ用かてて一は  
魚渡り沖の成物と云り詳知は知る事成知る事と云半成

鞍之部

一 かくまきふみろく打たる金渡梅の鞍之半 みるくといふ家  
語りたり平家物語のみるくはくといひり又平家物語のみるく  
みるくといひたり鞍之部よりかくまきふみろくはみるく

形を鞍の致し付るなり打するといふ鞍の致し金きんをて作  
て鞍を打付るを云先打物といふなり東鑑文治五年六月六日条二 馬糞毛  
白鞍付金柳子丸打物と有金渡梅と鞍の山形の端は金の細  
き高金を打するなり

一 以て各地の鞍の事 いかけは江戸御と云りあといふ物なり  
沃然と書なりいかに各地の鞍の事かきいひたり此は又いふに  
伏箱杯の類といふありあまなるなり何れも其類を一面は金  
粉をそぬりたるといふ各地と云道世より相違地なりといふ事  
其いふ各地のうへはよく其類を云るなり沃然と云て打つる  
かくまきといふは御のうへは打つるといふ事と云り

浦氏物産まさねの火よりとぎくさくいつけと何りまゝ清か細か  
枕家子にゆき多いらあきせよあきといふぬおあり右いつきも  
折さかふる事といふあといりいつあ地と云い連絡をそた  
くらおいつけ地といふなり

一 かくみ鞍の事 鞍の前後の印よ合よてときんとも赤洞をも  
為きののこををけりてゆきおしに炭押をかあする城かみ  
くくといふなり諸鞍日記よ赤鞍の事移りの形よ赤洞  
を介よ打て炭炭押を御なりは金よ者う紋を打て付るを中  
かみくくといふなり何り統といふく鞍かよもかきくは炭垣  
統響く云物何り綿抄よ介よ日記よくく近世たのくくかみ

頃よとけり統統といふ人あり甚だまうなり何りかみくくといふ物  
あよあり右日記よきりく

箆部

一 名ひくはありあての事 ほうきをといふは履下のおの事  
方まよと津まよと平家物産よあひくはゆあて打たき  
と記をとつとそゆりあるとつあも箱の前打をきき音を教する  
なり又平家物産よ名ひくはゆあてとつ小杖よとて杖たき  
とつらと履のおの事夫のうしゆよ杖よとあきとまきる小杖を紙を  
たきよきりなり  
近世製作の箆に引ぬ 箆とははてて杖と入るといふなり又物  
干を入れて履の柄よ此事をうといふ高紙あり履よ引ぬ  
此物とは違ふなり 或曰信豊忠ひの信ひ  
引ぬの事あり古製と云なり

義經記

禮の部

一 黒草にきりぬ禮の草  
一 紫すうこは禮の草  
神事指と二波よりきて上波に玉括うとき紫のりては六中の為  
ひうけきりて下波にるる草よをひけり束成あり右要よ  
多く見へり或は上と中を為紫次波の草紫下と二緯をよ  
にとり紫緯緯とすう用よりたる

一 物にたる先の禮の文  
一 物にたる先の禮の文  
ゆゑ此字文字にありては六非ありまみて  
ゆゑ一物に繩目と赤草の名とそ草緯爲き白の二色を

二重に並て丸折の形と一面は赤をる物たり右二色と幕のひ繩の  
色は赤と繩をのせりまゆくなり伏純目と云又純目の草  
ととひふ古坂より初なりと見へり盛衰記は新大納言成就法皇

此草もたるをきてやいおも親<sup>坊中納言</sup>坂<sup>十時</sup>あるなま草う何と  
<sup>時</sup>くま青作

ゆゑに大納言の草よかり著りて物と宮よりなりは大納言大  
平治の義経の時作形は半して二波にきりぬる爲指の草を  
考てるもひふの結りて和とさしなり一更とひひかて繩目ふ  
替へてひたりとさくや一繩目は禮の函後三年合戦の法又白石  
先生は古經の法よまへり近世も成りひふあ説なり

一 ひろく〜産の事 詳す〜義理記より草摺の志や海をひき  
理のれよきとあり是巻より例として威毛をとおつたあつ産に  
亦まう馬よのりては作坊を百より時の有れとのりなり草摺の  
志と海なりといふよりて見れば馬の歩むははれてひき〜ま  
草摺のなる者なりといふなりあの産ハ草摺のう〜草摺とりてひ  
馬のあよはちりて草摺お〜りてきり〜

一 一と志すれ〜産の事 萌英束ね〜けりおた字結〜といひあ  
なりお英おた産を〜赤草ね〜城赤ね〜や〜り〜例回〜  
一 きろ〜地の産の事 英なる深草お白〜紋と深草〜なるを〜  
ね〜〜産と〜り〜きろ〜地の深草ね〜藍白地〜なるね〜

知〜〜は威毛と名画よ見〜

一 ひと〜産の事 緋と深草草〜威方〜産之緋威威威  
ととと〜日威ととと〜何な〜又産のあ〜威方と〜赤の事と  
して糸緋ね〜〜ととと〜おた字〜て〜草の産と〜〜おま〜  
ぬま〜なり〜ひと〜〜赤威との名あ〜産の〜産と〜  
赤い草ね〜〜産と〜産と〜たのと〜あ〜威方〜威威威威威  
ととと〜赤い〜〜ととと〜おた字〜て〜草の産と〜〜おま〜  
あ〜〜近世何産と〜おま〜〜おま〜産の色を振〜り〜  
け〜〜の〜り〜おた字〜た〜おま〜〜おま〜〜  
物産と〜川〜威の何〜おま〜おま〜おま〜おま〜おま〜

鑑きてあらはれり〜ろのかりきらうあは清〜言とて病くんはて  
氷菓成と三事と高統〜たるこりり

一 黒草紙二寸一切て一寸の裏をたれ〜たる鑑の事 是の前の草紙  
物産の大け〜先の鑑の事と考へ〜是大か〜自に鑑の事といふ  
なり黒草を廣と二寸一裁ても方おつ〜うと〜おをの廣と一寸  
小なるなりは草とて大は月のれとせけらり〜るや〜今世は草紙  
此れ〜

一 卯の玉柄〜此鑑の支 是の糸柄〜あり卯の玉のき此なるり  
必ゆる紫の草なるよか〜りて柄はあり一版は紫一版は白く  
染〜色と多くも感〜念よまか〜下中か〜きおもれとん

なりは二柄をた〜たる鑑を画〜も多り〜り

一 黒糸柄〜は襦袢柄ひ〜く打する鑑の事 くらと糸とをたれ  
なりをた連柄ひ〜く打とつは襦袢柄は志馬柄柄も然柳もな  
この類と金柄もたかくほりよなるも何〜り同〜りすか〜たる何り  
是におはる物形言〜ありなりゆりよすか〜ん金柄と年〜し  
毛ゆりよ〜るも金柄のひ〜きなり

襦袢部

一 黒糸柄〜は襦袢の事 紫糸柄〜は前よ云々〜襦袢の脊  
よと金とる物なり赤細下の襦袢は袖の糸と記を〜

一 黒糸柄〜の襦袢は本 黒糸柄〜は前よと〜り



代り小君あり付禮の神とせしむるなりこれ盛衰記平家物語  
義經記太平記其外古書は後卷の神付てその事あり一か  
て礼をいふゆめありは讀て知るべし禮を元來神の物に禮を神  
付てその事ありなり後代に及んで後卷の神とせしむるなり脊  
板と書ふなり又平家物語は思ふに禮をいふ事あり卷の古の小子と  
いふことありまゝに同じく後卷は小具を指せりあり後卷は元來  
小子と書ふても後卷の禮の代り後卷をいふ小子  
脇を指すなり禮の古の小子とせしむるべし小具をいふことあり  
なるなり禮のいふ事あり小具をいふ事ありなりとせしむるなり  
又或は後卷の先板の事ありなり後卷をいふ事あり物なれは後卷と

云々なりは後も能なり

甲二部

一 白星の板甲にまゝに打たる事 白星は甲の星のやうに星は  
板のつらみあるをまゝに打たる事なり板甲はまゝに打たる事  
也と書ふことありまゝに打たる事なり水神の系板なりとあり見る形も板なり  
とあり形も略してとありとありまゝに打たる事なり文字より意形とありとあり  
なれはその詞ははねて鉄の家板なりとあり形もまゝに打たる事なり  
事なりとありとありの義なりとあり加増の事なりとあり又板の家板  
のたのまゝに打たる事なりとあり形もまゝに打たる事なり 其考のまゝに打たる  
記にまゝに打たる事なりとありとありとありとありとありとありとありとあり



此等の形をうおとたつ勝軍州のふけ用之とてしりたをたつと勝  
軍をといふ事古事の方で不見事とてあはれなり白勝本は勝  
軍本とていふ事夫の字して後をたつたをたつたをいふ事  
勝軍州とて名をけりかたなる事なり白勝本と勝軍本とを  
けり事なりたかけり古事なり事なり事なり事なり事なり  
時白勝本とて曰天王は縁成刻て以後は中よきてけりて  
おひくく勝軍の勝のひりといふ事日本元亨秋を合意集  
よとて此左勝軍本とて存なりけりといふ事なり事なり事なり  
太子は古事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
けりたをたつたを事なり何の古事なり事なり事なり事なり事なり又

おとたつたを細くもく殺の切とていふ事なり事なり事なり事なり事なり  
なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり  
うとていふ事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり

一 三枚甲は事 志ある所なる事なり

古刀之部

一 黒漆の太刀は其の皮乃凡鞘入する事 黒漆の太刀は名目抄  
曰黒漆太刀は位用之又飾抄曰諒周帯之金具等は抜替吉  
取、釵具也時衣束毎文紫或、藍草云、釵柄白佐女如常重  
取、同黒朝金物黒漆白草装束柄黒佐女云、平家扱後の河  
邊わねの河分扱せし事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり事なり

刀持て来たるとかねていふ南がくは信る小鳥といふ太刀やうんは  
あふ見だつといふあうくして大は幕は河用る太刀の太刀なりといふ  
凶事は河市よりをりなり太刀といふ金もふ形物なりともく帯ねと  
包たる草といふ太刀の深草白草といふ金具をさるぬりなり  
中冬といふ黒塗の太刀は熱の皮の尻鞘入たるい吉野は作換川  
覚花の太刀といふ太刀は河うりなり太刀といふ太刀は河うりなり  
豹床熱等の毛皮をて袋紙作りて鞘のくさなり湿り河うりなり  
いふゆへ南がくは信る小鳥といふ太刀やうんは

一  
いふ太刀の作りをりなり太刀 噴物作といふ物作りは書なり太刀の  
作りをりといふ見ありゆへ名なり太平記叙の巻いふ信川の叙い

あはれは信る小鳥といふ太刀やうんは  
物具といふ太刀といふ物作りは書なり太刀の作りをりといふ見あり  
万旗の作りをりといふ物作りは書なり今の人といふ虎の皮の尻鞘と  
いふ太刀は信る小鳥といふ太刀は河うりなり太刀といふ金もふ形物  
なりともく帯ねといふ太刀は河うりなり太刀といふ金具をさるぬり  
なり  
兵庫寮の宿い武具を作りて御庫に納る宿い寮といふ宿舎なり  
いふ太刀は信る小鳥といふ太刀は河うりなり太刀といふ金もふ形物  
なりともく帯ねといふ太刀は河うりなり太刀といふ金具をさるぬり  
なり  
兵庫寮の宿い武具を作りて御庫に納る宿い寮といふ宿舎なり  
いふ太刀は信る小鳥といふ太刀は河うりなり太刀といふ金もふ形物  
なりともく帯ねといふ太刀は河うりなり太刀といふ金具をさるぬり  
なり  
兵庫寮の宿い武具を作りて御庫に納る宿い寮といふ宿舎なり  
いふ太刀は信る小鳥といふ太刀は河うりなり太刀といふ金もふ形物  
なりともく帯ねといふ太刀は河うりなり太刀といふ金具をさるぬり  
なり  
兵庫寮の宿い武具を作りて御庫に納る宿い寮といふ宿舎なり  
いふ太刀は信る小鳥といふ太刀は河うりなり太刀といふ金もふ形物  
なりともく帯ねといふ太刀は河うりなり太刀といふ金具をさるぬり  
なり

帯ねと御庫の  
宿舎といふ  
宿舎といふ

- 一 縁とつらむとせらむ其七の縁とつらむと帯ねと廻り事とつらむ
- 一 柄と鞘と巻紙のつらむと色と色なり色と尻鞘と入るなり
- 一 作りとつらむとつらむとつらむ 詳なり
- 一 作りとつらむとつらむ うちめら目黄きつとつらむとつらむ
- 一 股あせ免のつらむと金具と巻紙とつらむとつらむ
- 一 せんせの作りとつらむとつらむ 詳なり

刀と部

- 一 赤木はつらむとつらむ 赤木とつらむとつらむとつらむとつらむとつらむ
- 一 平あつらむのつらむとつらむのつらむとつらむとつらむとつらむ
- 一 巻紙のつらむとつらむとつらむとつらむとつらむとつらむ

弓と部

- 一 作りとつらむとつらむ 藤とつらむとつらむとつらむとつらむ
- 一 二あたるとつらむとつらむとつらむとつらむとつらむ
- 一 作りとつらむとつらむ 作りとつらむとつらむとつらむとつらむ
- 一 作りとつらむとつらむ 作りとつらむとつらむとつらむとつらむ
- 一 作りとつらむとつらむ 作りとつらむとつらむとつらむとつらむ

松とほろす

一 毛麻のうらね半 後坂志をくはく半八澤よりいそぎをききまゐる  
乃也武田小室原等の傳ふらう後坂志をくはり強上と半二和坂と冬強下  
二千八和坂とまじり半六層二千八百のわくせり上下あう後千強卷  
日柳冬月柳冬夫摺日月たきるの板ありあふ板のほとあはを製  
なりあうり以前古代ま重板のひく物あはすりく是末れ一板  
よふ板の板定めとさく唯志あく板と冬とま重板くひひくあはす  
やく板のうくまともは強板をあまは洋をくは

一 あくまはらの半 洋をくはりくまきと室原くはりあはすり  
一 ゆく冬月うらね半 盛衰記節卷うくまたり板卷まのうらね文

字まみで流く共製洋をくはり内竹外竹のあの上板板よて巻たる  
とまれ

一 白木北らの半 漆ぬくは板板と巻るをいふ

一 二和坂のうらね半 武田小室原の傳ふ板板二和つあて巻と二  
和坂くひく古代の二和坂とあはかりくやまをき

一 糸序みのうらね半 麻糸と松糸板のやまをきりてさう強よりか  
縛きて透用もねく糸と並へて巻あり糸のりよま漆と背て巻ぬ  
うねくまを強ぬりて後その上よ下れあう板を板冬夫摺板を有ふ  
化粧板と巻なり相摺板大板部冬名村と糸の氏家よは強より  
伊へくま糸序みのうらね板をきりて糸序板と背て巻ぬり

用ふたる糸と其古製と見る事と併し其の製法を考へぬ  
 長サの大小守短あり是馬上のりなる一馬守の長き小窓ある事  
 東鑑にも見ゆり大庭平を築結る一詞をて智下右の糸法み  
 のちり上下の弭常此らよりいせりよりなるも紐をゆえ形は  
 又彼らの法をくたる旨の糸法をめて見せし法法はかひなく其の  
 りもたり軍らみいよわしき製法也

一 丸本丸糸 上古梓り樞り樞り樞り樞り樞り樞り樞り  
 かりへて是は兵庫寮式より造るへし料物と糸草漆等の事を  
 載らざれば竹の事は他の事は是より上古は彼本よりか  
 ちかきふらりて本ら丸糸とたらしめりいひては是は本行合

せりりりり糸本たる世よりしてまは終まぬるも若の本らの事を丸  
 本らしひて別らしとまはる詞をいへて上古は本らなり一は  
 何れ本より本抄といふ名は今も傳はり何れ竹白らといふは  
 幾種記書たる法をもや本行合をたらし何れ丸本を樞りたるは  
 こころたらしといふは一は丸本らといふは一は是のたらしまはり  
 此まはるの詞をいへてや山墨氏のいふも丸本らあり長サ  
 六尺守りより斗りなり丸く削て糸のすいひしひらみ何れはな  
 くと黒漆をぬりて襷の上の方と口角をぬり妙して糸地すして糸の  
 先をくも書たるやふ細く二尺小唐正元年乙未七月と書たりその  
 本目といふは樞のまはりしは樞らなり一は樞ら樞ら樞ら樞ら

也して云原正の義政の軍九代は法本行金巻のうらちのうらちのたき  
あど丸まらとつりしとるより伊勢物語の歌よりつらう海田次  
法とら年と産て家とくかこらふり見とよくよみたり丸まら  
本なりぬ何と本は種いふりくひれぬなり年と産れは法に  
うはりくひらぬ年と産てくひらるり見せしとるなりま  
本抄のうらちと定家とあふ見せしうらちの種はぬあり種一箇の  
法きのうらち又飛鳥御 時きとらうらちのきとら法きの本の巻ぬ  
まよ家れと法ぬ是概のねと切てらよ法きのゆとらなり 本行金巻  
のうらちハ  
何れの代より始りし詳するは六孫王御基より始るなりゆらちの法きの本は元実跡の  
見ふも法書を本れ用ひるは法本抄のうらち六帖歌信実朝臣のうらち  
まてとるまよ世作のうらちとくもまらなりうらち  
はよ世作といふは本行金巻のうらちなり

夫と部

一 石打のうらちなり本 是は主母の石打を云なり一 貞母の種  
ぬく石打と尾の種のうらち下きなりぬといふ尾と石打産て  
いふは石打と主母の種と大石打と主母二と小石打とありて  
石打は種は産てぬありなりけり非なり石打産ては法きの本も  
外一軍陣のうらち何ととも名産のうらち本と産ては石打と云  
は石打の産てのうらち何ととも産ては石打と云なり  
此は何の種と産の類は石打と云なり 盛衰記は鳩の石  
打の夫見ぬあり

一 黒澤羽の夫と本 高は黒羽の事は法の本助産て天澤凡と

は非をきくひのまはし

一 大甲黒た矢の本 舊名鶴下いらく中鳥ま中まのねい

鳥の大形い大甲黒たい鳥いのい鳥い中い鳥い

一 くのねり本 ちくとうおおとくおらやい鶴のまい

おとむらり

一 ちくとうおとくの本 ちくとうおとくおらやい鶴のまい

切生切骨切骨をくち切文と書とよひ文はねの紋い鶴のまのね  
黒白れ紋いつらつらやまるといふなり切文いおらやい

一 ちくとうおとくの矢の本 ちくとうおとくおらやい鶴のまい

ちくとうおとくおらやい鶴のまい

ちくとうおとくおらやい鶴のまい

ちくとうおとくおらやい鶴のまい

ちくとうおとくおらやい鶴のまい

ちくとうおとくおらやい鶴のまい

ちくとうおとくおらやい鶴のまい

和名抄云鴉一名澤虞即護田鳥也和名於須賣止利又爾雅

澤虞注云今鴉澤鳥似水豨蒼黒也鳥常在澤中見人

輒鳴喚不去有象至守之官因名云俗呼爲護田鳥お換の玉

けとまといみなくち名とといふ

一 ぬりのくたの本 ぬりうがしいぬりたる夫い征夫の鳥なり





なるど目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
ひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
ひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
ひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
ひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
ひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
ひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
ひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
ひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
ひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

白きひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

云ひ錦好しそいせぬものあらはしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結  
後もそも殊費もそも物もそも生損もそも布もそも定たる年にな  
きなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

名者し傳へるとどのきも目結

わ烏帽子の半一者名者し傳へるとどのきも目結

うらこかてふひしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

を用しそ名者し傳へるとどのきも目結

烏帽子の半一者名者し傳へるとどのきも目結

結のしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

宗其記はしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

葦の名者し傳へるとどのきも目結

況より名又後三年合戦の結ふしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

又云今時のわら烏帽子はしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

名者し傳へるとどのきも目結

うらこのしりなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

いふなりら目結ひしりなりら目結ひと名者し傳へるとどのきも目結

風折（さか）に（ま）あ（ま）え（り）に（と）あ（る）人（あ）う（じ）ぬ（る）志（は）ゆ（ら）ね（ら）る（ら）  
ま（さ）事（な）り

一 （ま）み（ま）る（ら）ふ（ゆ）ひ（か）ら（あ）る（事） （の）こ（ろ）の（事） （い）を（ら）る（事）  
志（は）ゆ（ら）に（ま）あ（ま）え（り）に（と）あ（る）人（あ）う（じ）ぬ（る）志（は）ゆ（ら）ね（ら）る（ら）  
衣（え）文（ぶ）ど（う）に（お）の（り）を（て）袍（の）き（ぬ）外（と）お（な）う（さ）み（に）を（れ）た（ら）ゆ（く）  
ね（こ）ま（あ）よ（う）な（た）だ（ひ）て（お）お（み）ら（し）す（ま）の（け）け（る）お（も）ら（さ）  
若（わ）ら（う）た（ら）い（も）も（き）く（と）い（た）ぬ（も）あ（ら）う（さ）と（お）ら（し）に（こ）ぬ（る）事（な）  
も（な）ら（う）ら（る）を（ら）る（事） （一）お（ら）い（ら）い（ら）に（さ）か（ら）ぬ（ら） （一）さ（し）ぬ（ら） （一）ま（さ）ら（し）ぬ（ら）  
け（り）く（か）ら（う）て（ゆ）ら（れ）き（く）馬（う）帽（ま）と（あ）ら（う）ぬ（ら） （一）お（ら）い（ら）い（ら） （一）時（じ）代（だい）ら（う）

以後古のやう（に）なる（事） （一）と（い）く（と）馬（う）帽（ま）と（い）ひ（て）今（い）の（事） （一）  
と（い）く（と）馬（う）帽（ま）と（い）ひ（て）今（い）の（事） （一）お（ら）い（ら）い（ら） （一）お（ら）い（ら）い（ら） （一）お（ら）い（ら）い（ら） （一）  
こ（の）ぬ（ら）ら（る）を（ら）る（事） （一）な（り）た（ら）時（じ）代（だい）も（も）甲（の）の（下）に（お）ら（い）ぬ（ら）馬（う）帽（ま）  
お（ら）い（ら）い（ら） （一）お（ら）い（ら）い（ら） （一）お（ら）い（ら）い（ら） （一）お（ら）い（ら）い（ら） （一）お（ら）い（ら）い（ら） （一）  
甲（の）と（い）く（と）馬（う）帽（ま）と（い）ひ（て）今（い）の（事） （一）と（い）く（と）馬（う）帽（ま）と（い）ひ（て）今（い）の（事） （一）  
用（の）と（い）く（と）馬（う）帽（ま）と（い）ひ（て）今（い）の（事） （一）と（い）く（と）馬（う）帽（ま）と（い）ひ（て）今（い）の（事） （一）  
之（の）衣（え）文（ぶ）ど（う）に（お）の（り）を（て）袍（の）き（ぬ）外（と）お（な）う（さ）み（に）を（れ）た（ら）ゆ（く）  
と（い）く（と）馬（う）帽（ま）と（い）ひ（て）今（い）の（事） （一）と（い）く（と）馬（う）帽（ま）と（い）ひ（て）今（い）の（事） （一）  
事（な）り

箴言

一 ころころ名のうそはみさうは事 ころころ履の志ひは中

あそと甚あまのそり後年念の序も是由後思念後履

職人並  
合五十四番

の装束抄ももとも事病も親長この職人並祝合も是

歌、袖の  
内、花の  
お、子、種、の  
ま、つ、り、な  
は、け、り、な

ころころつころ履の製法は毛皮もそはむつと後れ巻柄も卯柄

の文飾あり帯も巻かかき色柄のころはころなり又縁の皮

よ色も縁のころころつころなり近世の履もころころハ狭高とも

素巻とも書く白く細く高くとはころりともめりとも高くと

履の序は巻ところつころ履つふ又職人祝合の法詞もころころ

ちくて柳履もころころ阿波ハ柳履のやとはころりともめりとも是の

教前後なり名戒ハ免の面と履の面もころりたまにはりなるとも是

又大高履なりはろみさうは事 帯もみさうは履もころころつ

はろみさうは履もころころは洋物も推しては是夫とよはなは

十六里二十四里ハ角も並ところ又まろくたもころころは履あり

は履もころころはろみさうは履もころころは履

巻の序はろみさうは履もころころは履もころころは履

いひまらる事却て我前後なり今も是履ハは字子人等

見まらる物も是履ハは字子人等

久し重る事とて乃は是履ハは字子人等

明和八年 辛卯正月

伊勢平藏貞丈

此一冊以渡邊一野本文政八乙酉冬十月十四日  
於宇土郡網田村書寫之 中村直道

薰箱録

中村直道輯録

此の書は去年義興侯と河内りして其中に漢の威光  
乃事と記しぬ其後人古漢を月と著して古代乃威光  
乃名乃古書にんえしとの集見礼しと是を多賀  
古政乃ぬ乃東乃河内とあるし此は又彼ぬ古漢  
を月乃中とす平家義興侯と建さうしかく毛乃名紙  
をくまふしてそのと記しるをくまふしとす  
又漢書紙著ぬぬらくくまふしとす  
平家義興侯と記しるをくまふしとす  
札と名くくまふしとす  
此は三京城とす今とて威光の威光を事しとす  
古の威光とす古の威光とす

少くは乃ちたる意をさうり乞定あるが式のと威毛は段系  
乃撥草をくく毛乃らぬ之のく名は付る事好書に  
此も亦の威毛とそり定りて志はたすなりと

伊執貞丈

鑑毛目録

鑑乃部

- 一 緋威の鑑と数目小格とるく事
- 一 紅威乃鑑と事
- 一 緋威の鑑と事
- 一 糸緋威の鑑と事
- 一 紅中濃乃鑑と事
- 一 忌糸威の鑑と事

- 一 赤威乃鑑と事
- 一 赤威有白鑑と事
- 一 赤草有白鑑と事
- 一 小格威鑑と事
- 一 小格草威鑑と事
- 一 振威と事
- 一 赤黄糸威と事
- 一 握白鑑と事
- 一 白の鑑と事
- 一 白の糸と事
- 一 赤威と事
- 一 黒草威大忌目乃鑑と事

- 一 紫糸威程と本
- 一 浅黄糸威と本
- 一 藍白代紙黄に色と本
- 一 黄糸威の程と本
- 一 黄威の程と本
- 一 白糸程と本
- 一 白糸乃程妻敷と本
- 一 緋唐綾威と本
- 一 朽葉の唐綾威程と本
- 一 萌黄乃唐綾と本
- 一 澤浮威の程と本
- 一 萌黄乃澤浮威と本

- 一 紫威程と本
- 一 洗草大程と本
- 一 洗草程妻敷と本
- 一 印乃妻敷と本
- 一 緋糸威程と本
- 一 白幅柳緋糸程と本
- 一 赤糸威程と本
- 一 敷目と巻多の赤糸威程と本
- 一 松島威乃程と本
- 一 耳中濃乃程と本
- 一 練首威の程と本
- 一 大京目乃程と本

- 大葉目一枚交り奉
- 三枚草大葉目程り奉
- 黒草と二寸五分切く一寸五分程り威多り程り奉
- 白布綾紙とつと威多り大葉目程り奉
- 白幅梅の程り奉
- 糸毛の程り奉
- 織の程り奉
- 金乃程り奉
- 草の程り奉
- 蕙草威程り奉
- 縹色威程り奉
- 朱乳赤糸乃具足り奉

- 色々威り奉
- 緋下濠程り奉
- 令幅梅乃大程り奉
- 二ッ川の中一通威程り奉
- 蕙草一通り濠り威多り程り奉

暖巻之部

- 緋威乃暖巻り奉
- 小振威乃暖巻り奉
- 蕙草糸威の暖巻り奉
- 蕙草白乃小振巻り奉
- 蕙草とつと濠り奉
- 洗草後巻り奉

- 緋赤暖卷之事
  - 赤糸暖卷之事
  - 蒼草成中二匹黒草より成るの暖卷之事
  - 蒼草暖卷之事
  - 物板白くく巻之事
  - 黒草成くく巻之事
  - 赤草黄糸暖卷之事
  - 白綾成後巻之事
- 筒丸之事
- 糸緋成乃筒丸之事
  - 麴磨乃筒丸之事
  - 粉黄成筒丸之事

筒丸暖卷之事

新書平義兵後撰暖卷目録

- 小椽紙巻之事
- 黒皮成乃大糸同く全交乃巻之事
- 品川成の巻之事
- 度りや成之事
- 洗草乃巻之事
- 黒皮成巻之事
- 伏滝月乃巻之事
- 粉黄成乃巻之事
- ひかりの巻之事
- 糸巻
- 赤糸
- 度り
- 洗草
- 紫生濃の巻
- 小糸
- 粉黄
- 黒草と二寸に切て一寸に巻て



一 威多乃程と申一 一 知兼威乃程と申一

一 黒糸威に世物打する程と申一

一 黒糸威乃程を白令物打する物扱せ思ふ糸かど一  
後卷二紙言ひある事一

一 荻葉威乃程と申一 一 黒糸威乃程と申一

一 逆澤深乃程と申一 一 一 きたい乃程と申一

一 一 繩目乃程と申一 一 一 并 神付と申一

以上

一 緋威乃程の浦見と稱する事一

緋威乃程と申すハ平氏歎詞に記し一 一 緋乃草に成  
せりふ諸少年義経疾今遠き九向大内記係流るる内侍上人  
その文似伴一 一 初は巨樹うやういよのぬ乃あけ乃草一

緋威と申すは多かりきえあはぬ大内乃足あきおあえりふ坂の

関と申すは多かりきえあはぬ中乃とええいふもりけのほと  
紅兼りて満る草はいふと乞部かきなる程は緋の糸

くしおと多かりは糸いふと乞部小指するといふ  
教目いふと字をりてあつと乞部と申すハ世説をいふ

かして袖巾をいふと緋威をり中には切目以て糸の色をて威  
をいふと緋威の教目いふといふ程をいふといふは切目いふ

なり神も巾をいふといふ切目いふといふ程をいふといふは切目  
二色も一色もいふといふ程をいふといふ程をいふといふは切目

て介下あつともいふと或は教目といふ程をいふといふは切目  
まゝとて極目乃まゝをいふと教目といふ程をいふといふは切目

はきといふせんといふ道なして削りまゝにたてて程をいふといふは切目

この地多に味取目せんは、殊に製する上の事にて威毛の香  
と大く感ひし事なれ用ひし。義經記に、権の取交  
さるるに、夜月おをり赤糸かき。宛先乃権九也。  
赤馬をて、しるしと見えたり。また、八條の事、夜月に候  
たりし事なれ、別は威毛の事、法しるし。殊に、権の事  
り、あらず、先取のりて、方ふ。其上、夜月、せん、つ、ふ、さ、る、は、殊  
乃、面、と、や、ら、さ、る、け、を、年、と、な、る、は、権、の、事、な、り、用、ひ、し、  
か、ら、な、り。

- 一 紅威権の事。 紅威の事。 紅威の事。 年義源法小礼。
- 一 紅威乃権の事。 年義源法小礼。
- 一 赤威乃権の事。 年義源法小礼。
- 一 赤威乃権の事。 年義源法小礼。

- 一 紅堂濃権の事。 上乃赤糸、権の事。 紅糸。 年義源法、茶生濃の例に、唯、知、下、函、も、ん、を、  
異、説、上、と、紅、糸、と、茶、を、す、り、せ、り、非、なる。
- 一 黒糸威権の事。 黒糸と威、糸、の、事、細、を、
- 一 赤威権の事。 年義源法、赤威の事、年威の、  
赤威、肩、白、権、の、事。 赤威、と、赤、糸、の、事、赤、威、乃、事、の、事、  
下、二、段、と、白、糸、と、威、糸、の、事。
- 一 赤白赤糸の事。 権の事。 赤威、肩、白、糸、の、事、同、一、事、な、り、
- 一 赤草肩白権の事。 赤威、肩、白、糸、の、事、同、一、事、な、り、
- 一 小柄草威の事。 藍草、に、似、く、小、柄、の、義、形、と、深、か、毎、の、草、と、威、糸、の、事、年、義、源、法

少振成英にほ——たる程の糸よ記をぬ——

一 小振成程の事—— 小振成威の事—— 卒の字と罫—— (云々)

一 振成の事—— 少振成の事—— 小乃字成罫—— (云々)

一 振成糸か—— 乃事——

一 半長糸法に記—— 乃事成威の事—— 糸乃字罫—— (云々)

一 振成白程乃事——

此所と振成糸たる—— 袖をたるものも程を度く終りたる白くをり  
といふたる白の事—— 乃に糸—— 記を

一 檀句程乃事——

檀句を英をに糸を中糸をとりふ今世にゆる事—— 後成志事  
敷の如宿装束抄にほ—— 乃事たる表いとわう表英とわう  
表表のをも亦や英と合して—— 紅葉と名付たる檀句を——

云々をりて甲をとりたる色とのよまをりて身木を檀句とぬるて乃事  
似く秋乃末に糸にありたる物に葉をたたり中糸を糸とぬる  
より程にほり終りたる紅にほりて乃事たる中糸を英ととり  
程と—— 乃事たる程乃事たる程と檀句を檀句とぬる

百首乃沖秋

懐徳院

一月之—— 乃事たる乃事たる—— 紅葉

又も糸をとりて秋風をさく

文應二年毎日一首

氏神心為家

有馬山をくわく—— 乃事たる乃事たる

じとり神を祀り檀句をみちり糸を

檀句と成毛を檀句と—— 乃事たる乃事たると成—— 袖竹をりたる

終りたる糸をくわく檀句と—— 乃事たる乃事たる同例也

一句の事

鑑の威毛よ句とつふはあつひ沈音意物をこの句の意を初  
乃ほや音氣多し一市つら後信めく香うす成て音氣  
ま尖ゆし又句ハ刀乃焼も句つらも焼又乃而は好しく  
ええて平のくくも音高く成るる而と句つらも婦人の肩と意  
りて他つた上のもハ礼元くも濃く下乃身ハ音高なりて思後乃  
を山乃とく他乃その聲乃音高くおる音と句つらと成毛乃  
句も右乃意をりて何音にても袖付と音乃上乃とハ音高くまた  
版の中をりて又その次乃版を音をりて又また次乃版を高く  
おとすし中程より音高くハ音高くをりてまた音高くをりて  
何句つらと何音にほおほひつら音高き事なれも前奏句ハの  
音乃おの古書にそつらと見ゆつら

一句の事

句の東の鑑の身糸乃事し是ハ威毛の何句つらハあ乃事しまた  
れやましくお付遠て威毛乃句乃事といやして句の糸乃とと糸  
くも音つらつらその別別記をし何威の鑑も必身糸を味本の糸  
以用のりたる此味本と用ハあつと句乃糸とのふるハ物意なる人ハ鑑  
乃威毛乃糸もお生お刺と音して性ハ何ふ合ぬ音拍もを意しハ  
音重代乃鑑も性にもんれハ子孫意なる事忘ぬ句乃糸ハ身  
引くそ乃忘れと音も忘れぬ味本の糸ハ音く乃糸と鑑文より  
糸乃のこれハ地音く鑑文ハあハ身に引時をその忘れと味本  
乃糸乃音く文よりにしくも今も音ハ鑑文ハ鑑文も味本の糸の  
音ハつらて忘れ乃うすも音高きそ耳糸の味本ハ句ハ糸と  
名ハつらと音も音くも音高き白と句ハ白の句ハ在乃句乃糸乃事

と下ふ公家もこの部で威毛は身糸と丸合て名と三糸の  
多きもの何威りても耳糸の取れと用合事として式之又神と竹  
そのより着冠乃よりを免ぬひも必取本たわと

一 藤威の事

藤威の糸としてかき一多し藤を糸威といひて八六が取器  
て取かき一とふた代に何事も簡易としてふた者事を一物  
乃名りも祠りも取換多し一深家重代乃程深太く物指といひ  
一程り八藤乃真味うると多しと威さるる一平深物指り  
つとをらも取家乃各物としてか乃事也

一 黒草威大意月乃事

黒草威のりて威多し糸糸細事

一 紫糸威程乃事

紫糸とわき一多し糸に細事

一 浅黄糸かき一乃事

浅黄糸りて威多し別糸細事

一 藍白比威黄に色一多し程乃事

藍深乃草は白く紋取深出たりたるを黄に深くは藍乃而を前夫  
に作り之白紋は黄に作り之草にて威たりと藍白比威黄に作りたる  
程といふ也 平義親は見え多し小柄と黄に色一多し程いふも  
小柄もさういふ紋は作りても藍草に白紋の草と黄に深く  
色作り草に色かき一たるといふ事也

一 黄糸威の程の事

黄糸程りて威多し糸に細事

一 白糸威の程乃事

白糸りて威多し別糸細事

一 黄威の程乃事

黄糸かき一の事と程の事

一 白糸の程書きたる事

地御衣白糸りてかき一と袖竹とて乃お身糸別乃糸乃糸  
して書きたる事とこの事八端の事と衣乃はぬおのはゆを

上端の事には海に造れば海に止ぬ物乃止る場と云ふ  
色は上端の色なり其色はくろくは場なりと一寸斗卯の  
色なり系れぬと云ふ色は紫なりと云ふは天の  
色なりと云ふ事と云ふ事なり

一 紺唐後成り事

紺唐の後成り事と云ふは唐の後成り事と云ふ事なり

一 朽葉乃唐後成程事

朽葉乃唐後成程と云ふは朽葉の成程と云ふ事なり  
乃ち今世よりから糸と云ふ事なり胡曹抄に青朽葉者  
朽葉者朽葉と云ふ事なり青と云ふ事なり

一 煎黄乃唐後と云ふ中紅成り程乃事

煎黄乃唐後と云ふは煎黄と云ふ事なり  
紅糸と云ふは糸と云ふ事なり

一 澤深成り事

澤深成り事と云ふは澤深と云ふ事なり  
記を略す

一 煎黄に沢深成り程乃事

煎黄に沢深成り程と云ふは煎黄と云ふ事なり  
澤深と云ふは澤深と云ふ事なり

一 糸かき程乃事

糸かき程と云ふは糸かきと云ふ事なり

一 洗草大程乃事

洗草大程と云ふは洗草と云ふ事なり

何れ大無事何人の程ハ大を何なる

一 洗車道車より事 洗車衣同ト云ある事前より

一 卯の煮は海より事 程乃事

卯乃煮や〜乃事 平家歌詠小記を云九前より事

一 緋糸威達の事 緋を糸を威と云へ糸細事

一 白幅梅緋糸か〜乃事

緋糸威の程の袖板を云みゆ げゆの板袖のりの板乃端く

のむ袖より〜と白う糸よりてや〜と云事 かりし白くは程の

程乃事 ぬの事

一 糸糸か〜程乃事

糸糸乃糸〜と云〜知久はゆ〜苗染の事〜を威〜事

と云糸か〜と云〜又糸糸威〜と云〜糸糸〜事〜糸糸〜事

との程乃平文忍法お志〜ぬ

一 摺馬が〜の事

か〜事〜詳〜事〜ひ〜事の程と似てか〜事

程〜摺馬は〜事〜事〜事〜事〜事〜事

永久四年百首

俊損朝臣

推

ちりそひく〜事〜事〜事〜事

〜事〜事〜事〜事〜事〜事

六和神にり〜事乃程乃毛程然〜事〜脊〜事〜事〜事〜事

黒〜翅にり〜事の毛何〜事内程〜事〜事〜事〜事

鶺鴒和名〜事爾雅和名〜事 鶺鴒 郭璞注小鶺鴒 則鶺鴒音ハ

西及揚子方言に江東謂之鳥曰張華又云鶺鴒人云々 次花乃

下〜毛程揚子有 黒斑有ハ薄紅紫をね 鶺鴒味 鶺鴒不美之 鶺鴒小

摺子、成惣法ハナタヒハ今世ニ云と色乃糸取とつとわくありありなる人  
養をノ事也

毛川小忌添の札の文を命りか、名のある糸乃ね小忌添の糸乃  
似りよまじい深衣か、ひか、ちか、と名付、おあ、ひか

又云か、ちとりの一字列を列を判る刺る秋衣鷲糸の字を用ひハ  
ふたのあやまをちとりの字に赤く記さるる俗に函りたる摺子と書

に、一、標を乃成と画、と見えたる摺子か、一、札、乃、後、説  
おま、と、信、有、と、一、か、ふ、と、ひ

一 唐錦か、一、乃、事、  
唐錦を、深衣の、深衣裁、細、ふ、き、ん、か、一、あり、唐、後、成、を、と  
此、別、名、と、に、

一 牙、坐、濃、の、襪、乃、事、  
牙、坐、濃、の、襪、乃、事、

牙の字、一、は、海、は、と、讀、る、重、大、袷、身、袖、の、一、と、わ、月、  
く、ひ、と、一、と、い、ふ、む、ち、の、日、例、之、牙、は、袖、子、指、の、身、袖、子、指、  
乃、心、中、深、衣、の、唐、糸、の、一、と、その、た、右、乃、端、と、濃、衣、に、さ、る、一、と、  
何、も、お、も、と、一、ひ、か、一、と、後、年、一、合、裁、の、法、一、又、一、と、と、  
せ、一、と、濃、衣、の、一、と、一、と、と、一、と、と、一、と、と、一、と、と、一、と、と、  
その、名、と、そ、ん、だ、と、一、

一 黄、小、返、一、あり、襪、の、事、

若、た、う、え、ひ、り、ふ、あ、と、地、を、若、小、返、一、と、あ、り、と、記、と、小、返、  
若、た、う、え、一、あり、年、久、取、落、し、記、と、藍、草、乃、白、紋、の、草、と、標、一、  
あり、草、一、と、か、一、あり、あり、

一 練、貫、か、一、の、事、

練、貫、以、裁、と、細、と、一、と、一、と、一、と、唐、後、か、一、の、別、と、同、類、なる、もの



ちりし縁堂しりふ今世志らの一先しらふものゝちらうのし先と  
りふは縁堂なる名をもちあはらの神をぬきの一先の神をぬき二ふ  
あつて一つのものを纏ハ生糸りて得し縁糸りて織成縁緯と申  
しふ志らう何れにふし室所よる代りハあはらハ男女とも小若  
し一の先ハ見若れ言女持の印ハ志をきり一あるとあるか  
毛小指くぬくちきりし席に汗ぬ

一 大忘月程乃事

平安末後乃思草かしく一 大忘月ハ子文ら程乃糸り大忘  
月の事矣一くちりた放言に畧に

一 大忘月一枚交乃事

こら子と一枚交らるる

一 三枚草大忘月程乃事

草と三枚交らるる大忘月と

一 黒草と二寸小切と一寸ハ毛とかしく多分程乃事

以上四糸ハ平安末後乃思草威の大忘月小小子交ら  
程の糸にあしく一 記され坊下に略々考をる

一 白さし唐後ものいとかしく多分大忘月の程乃事

白さし唐後と裁く毛をかしく一 白さし唐後の程ハ保元物語小糸  
とのふ程と似そ白さし唐後のりして威なる大忘月の程同志の  
金物と打多るところ依おし何れを乞為朝の志らむら程乃事と  
しと志らむは源家重代乃入就乃程乃事の製をな物とあはらう

一 白福輪程乃事

白福輪の事一 前よおん

一 糸先程乃事

糸かしの程なるもとの威とあはらう一 草威後威源がし  
縁堂威とあはれをきり一 針して糸毛の程といふこ  
一 織程乃事



一 標名か〜の事

とあるし、名をよむ世美事といふとの、美名乃京といはるか〜多るを、  
とあるし、名を成り一名標馬か〜なふをいひ

一 朱乳赤糸乃具とる事

名乳赤糸乃具は、朱乳の標ハ赤黒と定式とる朱乳をいふ、式と  
とるまで、希代の事とある〜、人々好む〜穿てあるを、赤糸とある  
されも、乳と糸と成り、合て別の名と伝はる〜、朱乳赤糸乃具といふ  
赤糸ハ、高深の糸、具といふハ、高深といふ、都て具といふハ、道具といふ  
かき〜、義経に、婦人のけり〜、高深乃事成けり〜、の具といふ  
御ち乃、二の道具と三の具といふ、高深とていふ〜、甲冑ハ、高深の  
オノ、高深武成といふ、高深といふ、高深とていふ〜、高深乃事  
高深乃事とていふ、高深といふ、高深の事とていふ、高深乃事とていふ、  
高深乃事とていふ、高深といふ、高深の事とていふ、高深乃事とていふ、

ひ〜、士卒の標とが、名をよむとていふ、高深乃事とていふ、高深乃事とていふ、  
高深乃事とていふ、高深といふ、高深の事とていふ、高深乃事とていふ、

一 名〜か〜の事

参考太平記

羽と袖州摺と一箇〜、名をよむとていふ、高深乃事とていふ、高深乃事とていふ、  
高深乃事とていふ、高深といふ、高深の事とていふ、高深乃事とていふ、  
高深乃事とていふ、高深といふ、高深の事とていふ、高深乃事とていふ、

一 緋下濃乃標乃事

参考太平記

上と厚濃黄い〜、名をよむとていふ、高深乃事とていふ、高深乃事とていふ、  
高深乃事とていふ、高深といふ、高深の事とていふ、高深乃事とていふ、  
高深乃事とていふ、高深といふ、高深の事とていふ、高深乃事とていふ、  
高深乃事とていふ、高深といふ、高深の事とていふ、高深乃事とていふ、

一 金箔痛の大程の事

右同前

金箔の痛むるは、いふに、大程の事、  
金箔の痛むるは、いふに、大程の事、  
金箔の痛むるは、いふに、大程の事、

一 二ツシヤ申(四)威淫の事

右同前

詳す

一 荻葉一匹の繁ふとわらうる理の事

右同前

荻葉一匹の繁ふとわらうる理の事、  
荻葉一匹の繁ふとわらうる理の事、  
荻葉一匹の繁ふとわらうる理の事、

### 襦巻乃部

一 緋かきりの襦巻の事

○ 緋威のこゝ平家惣法に社をこゝに、  
襦乃部かきりに、

一 緋かきり乃襦巻の事

小振かきりのこゝ平家惣法に社を、  
襦乃威毛に、

一 萌黄かきりの襦巻の事

平家惣法に、  
襦乃かきり、

一 荻葉白の小襦巻の事

荻葉白の小襦巻の事、  
荻葉白の小襦巻の事、

一 荻威乃襦巻の事

荻威前、

一 宗草後巻の事

宗草後巻の事、

一 洗草後巻の事

洗草の平家惣法に、  
社を、

一 緋糸後巻の事

緋糸後巻の事、  
緋糸後巻の事、

一 赤糸後巻の事

赤糸後巻の事、



つくられぬ物産といふ名は分るなりと一名は山鳩といふ山鳩の  
羽の色は似たりなるなり天子の沖将家来といふ物産の沖袍を  
一名を名し又山鳩をいふをいふ沖衣と桐竹鳳鳥と織事なり  
沖袍の外桐竹鳳鳥の紋と織事なり

一 羽衣成筒丸万幸

羽衣かきし一羽の形を筒丸腰高の事一明德記より大内氏より兵を神祇  
官の森にさすといふなり時々の兵を筒丸の腰高帽子とすといふ  
指方た虫(流)ましくぬの流といふ射るをさるるをいふ右乃筒丸と  
腰高と乃間の乃いなり例文なり一筒丸と後高と別をいふ筒丸  
のりく後高とふ事と筒丸腰高と書ふ事と腰高は札といふ  
いふ免草なりして他は札にさす核は長く連なりぬをいふ筒丸  
肩よりいふ人志やくのや成ふ草とすく肩よりいふ心明は清なり

て州指しなり一前より一斗能く志く一前法といふ斗は州  
物のつくるといふ事なり一斗能く志く一前法といふ斗は州  
のりく後高とふ事と筒丸腰高と書ふ事と腰高は札といふ  
いふ免草なりして他は札にさす核は長く連なりぬをいふ筒丸  
肩よりいふ人志やくのや成ふ草とすく肩よりいふ心明は清なり

附録

一 漢徳乃中に春画乃巻物以納を立てお飾り何と云ふて夏に合  
しとあまの乃月の軍必待利なりといふ事なり一秘事故實なり事なり  
いふ人とも毎をいふも事なり一夫合戦の備故時乃運命いふ事なり

きまじくして大將の使やゑとにちり小一して十年の書格と  
 よう事と大將身とて十年信てられから画とてる事とて御判  
 るとして物故の事と被画とてる事とて御判とてる事とて御判  
 被画と御判の内御判の事と御判の事と御判の事と御判の事と御判  
 御判の事と御判の事と御判の事と御判の事と御判の事と御判  
 御判の事と御判の事と御判の事と御判の事と御判の事と御判  
 御判の事と御判の事と御判の事と御判の事と御判の事と御判  
 御判の事と御判の事と御判の事と御判の事と御判の事と御判

明和八年 辛卯秋七月十四日

扈從 伊坂平藏自天著

文化十三年の御書とて御書とてる事とて御判とてる事とて御判  
 とて御判とてる事とて御判とてる事とて御判とてる事とて御判

石備大石氏本写し 中村直道

董箱録卷之七十四終

文政九 丙戌春 三月十九日 宿屋のまじりて

てやうに...  
うらやま...  
な...  
あ...  
ま...  
う...  
平...  
地...

黄...  
...  
...  
...  
...  
...

...



